

2024（令和6）年度 事業報告

自 2024（令和6）年4月 1日

至 2025（令和7）年3月31日

2024（令和6）年度は、過年度に引き続き、動物の愛護と適正な飼養及び管理について、その知識を普及するとともに、広く国民の間に動物を愛護する精神を啓発し、生命の尊重、友愛及び平和の情操の涵養を図り、もって社会文化の発展に寄与することを目的として、次の事業を行った。それらの詳細は、後述のとおりである。

（1）動物の愛護及び適正な飼養管理に関する知識等の普及啓発事業

- ① 国及び地方自治体の事業への協力
- ② 動物の愛護及び適正な飼養管理に関する知識等の普及啓発を行う指導者の養成と教育
- ③ 調査研究及び情報の収集、提供
- ④ 相談会、講習会、講演会、展示会及び研究発表会等の開催
- ⑤ 調査研究活動への助成
- ⑥ 広報誌等図書印刷物の刊行

（2）その他本協会の目的を達成するために必要な事業

1. 動物の愛護及び適正な飼養管理に関する知識等の普及啓発事業

1-1 国及び地方自治体の事業への協力

（1）環境省等の関係行政機関が主催する動物愛護週間行事等への協力

① 動物愛護週間ポスターの配布

環境省が作成した動物愛護週間ポスターを愛玩動物飼養管理士養成制度採用校及び認定連携団体等に配布及び掲示依頼をし、動物愛護精神の高揚を図った。

② 中央行事

9月21日（土・祝）・9月23日（月・祝）に環境省、東京都、台東区、本協会を含む動物愛護関連公益法人等によって組織された動物愛護週間中央行事実行委員会の主催で「子どもも大人も一緒に考えよう、私たちと動物」のテーマのもとに、開催をした。

<屋内行事（参加者：150人以上）>

9月23日（月・祝）に国立科学博物館（上野本館内・日本館2階講堂）において、各団体の表彰式、シンポジウムを開催した。

＜屋外行事：どうぶつ愛護フェスティバル（来場者：10,000人）＞

9月21日（土・祝）に東京都立駒沢オリンピック公園（中央広場）において、公益社団法人日本獣医師会が主催する「動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」と同時開催した。

（公社）日本獣医師会からの協力依頼を受けて「ペットと防災について考える」ブースにおいて、学びの部屋の動画コンテンツ「リスクアセスメントと災害対策」「災害時の避難や事前準備のノウハウ」を放映し、啓発パネルの展示、啓発リーフレットの配布を行った。

場所	内容
野外ステージ	ペットと防災「能登半島地震と動物たち」、犬のしつけ方教室
展示ブース	全国ペット写真コンテスト入賞・入選作品展示（本協会が実施）、〇×クイズ（東京都愛玩動物協会が実施）、動物愛護週間ポスターコンクール入賞作品展示、「ペットの心得」など啓発冊子やポスター配布、各種パネル展示、東京都動物愛護相談センターのお仕事紹介、ペットの歯磨き普及啓発、ふかふかアニマルすくい、マイクロチップ普及啓発 ほか

- （2）関係地方自治体の動物愛護センターや保健所等が行う普及啓発事業への支援・協力
全国地方自治体（動物愛護管理行政）の125団体へ寄付金・寄贈品の贈呈を行った。寄贈品としては、マイクロチップリーダー、ノートパソコン、プロジェクター、ディスプレイ、各種ケージ、飼い主のマナーハンドブックなどを贈呈した。

1-2 動物の愛護及び適正な飼養管理に関する知識等の普及啓発を行う指導者の養成と教育

（1）愛玩動物飼養管理士教育事業の実績

2級愛玩動物飼養管理士（44期）及び1級愛玩動物飼養管理士（40期）の養成を実施した。愛玩動物飼養管理士の新規受講受験申込者総数は12,733名（1級・2級）であり、前年度比で98.6%（186名減少）であった。

内訳は、一般/個人の新規受講受験申込者数が5,474名で前年度比91.7%（497名減少）、企業の団体新規受講受験申込者数は101名で前年度比103.1%（3名増加）、スクールの団体新規受講受験申込者数は7,158名で前年度比104.5%（308名増加）であった。

【新規申込者数の詳細】

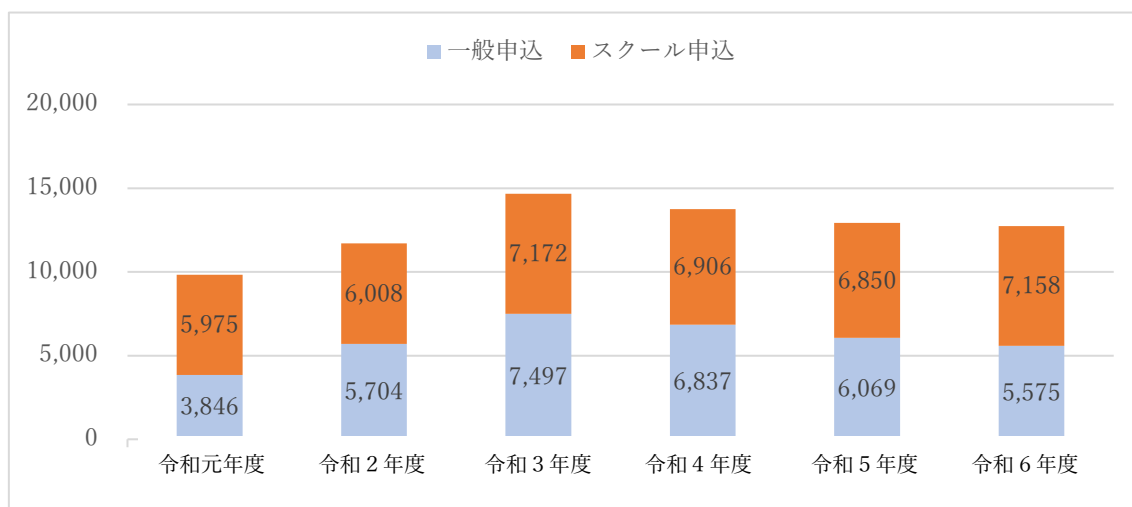
級別新規申込者数		申込枠別の新規申込者数と全体の構成比		
申込級	新規申込者数	申込枠	新規申込者数	構成比 (%)
1 級	1,995 (101)	個人申込	5,474 (1,691)	43.0% (65.6%)
2 級	10,738 (2,478)	団体申込 企業	101 (23)	0.8% (0.9%)
準 2 級	募集停止	団体申込 スクール	7,158 (865)	56.2% (33.5%)
計	12,733 (2,579)	計	12,733 (2,579)	

(カッコ内は 2 月試験申込における新規申込者数)

【参考】

・愛玩動物飼養管理士申込者数の変遷

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
一般申込	3,846	5,704	7,497	6,837	6,069	5,575
スクール申込	5,975	6,008	7,172	6,906	6,850	7,158
合計	9,821	11,712	14,669	13,743	12,919	12,733



(2) 環境教育等促進法に基づく「人材認定等事業」としての愛玩動物飼養管理士事業の推進

環境教育等促進法に基づく「人材認定等事業」に登録されていることを踏まえ、環境教育等の指導者の育成にかかる各種要件の遵守に努めながら当該教育事業の推進を図った。

(3) 2024（令和6）年度認定試験の実施（11月、2月）

11月試験は11月24日（日）一般会場41会場、独自会場11会場で、2月試験は2025年2月23日（日）一般会場17会場、独自会場3会場で実施した。

[受験者数の詳細]

受験級	受験資格者数	受験者数	合格者数	合格率（%）
1級	2,284(316)	2,097(264)	1,657(175)	79.0%
2級	12,507(3,749)	11,178(3,279)	8,763(2,469)	78.4%
合計	14,791(4,065)	13,275(3,543)	10,420(2,644)	78.5%

(4) 愛玩動物飼養管理士養成制度の指定校・採用校、企業との協力

① 学校法人等との協力（指定校・採用校）

愛玩動物飼養管理士養成の新規採用校が3校増えた。結果、愛玩動物飼養管理士養成採用校は109校、このうち愛玩動物飼養管理士養成指定校は29校であった。

<新規の採用校>

YIC 情報ビジネス専門学校、専門学校 ルネサンス・ペット・アカデミー 静岡校、さくら国際高等学校 本校

<参考：既存の指定校>

沖縄ペットワールド専門学校、学校法人穴吹学園穴吹ビジネス専門学校、学校法人宮崎総合学院宮崎ペットワールド専門学校、河原アイペットワールド専門学校、京都動物専門学校、広島情報ビジネス専門学校、MCL 盛岡ペットワールド専門学校、群馬県立勢多農林高等学校、沖縄県立中部農林高等学校、学校法人吉田学園吉田学園動物看護専門学校、専門学校大阪ビジネス・アカデミー、学校法人菅原学園仙台総合ペット専門学校、国際ペットワールド専門学校、専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー 浜松校、学校法人東京愛犬学園東京愛犬専門学校、学校法人高橋学園札幌どうぶつ専門学校、学校法人孔明学園東北愛犬専門学校、群馬動物専門学校、学校法人工藤学園愛犬美容看護専門学校、専門学校ちば愛犬動物フラワー学園、ナンバペット美容学院、名古屋ビジネス・アカデミー、専門学校穴吹動物看護カレッジ、学校法人未来学舎信州松本動物専門学校、東京都立園芸高等学校、専門学校岡山ビジネスカレッジ、岡山理科大学附属高等学校、学校法人北海道安達学園 北海道どうぶつ・医療専門学校、兵庫県立農業高等学校

② 企業取りまとめによる受講受験申込

次の9社より企業取りまとめによる受講受験申し込みがあった。

<新規の企業>

一般社団法人ウリエル

<企業名>

エコトレーディング株式会社、株式会社 AHB、ジャペル株式会社、株式会社サンデー、西村ジョイ株式会社、有限会社スーマース、イオン九州株式会社、大王製紙株式会社、一般社団法人ウリエル（新規）

（５）ペットオーナー検定

飼い主に対する初歩的教育及び愛玩動物飼養管理士への導入教育としての「ペットオーナー検定」を、インターネット上での申込受付、受験として実施した。受験者は199名（犬コース76名、猫コース23名、犬猫同時受験コース100名）、テキストのみの購入者は22名であった。

なお、ペットオーナー検定受験者199名における協会会員加入者数は19名であった。これまでのペットオーナー検定受験者3,864名における愛玩動物飼養管理士への受講受験申込者数は695名（当該検定受験者数の18%）であった。

（６）ペットの実践的な飼育方法の教育

愛玩動物飼養管理士教育を補完するため、ペットの実践的な飼育方法に関する教育の継続。犬の飼育にあたって必要な実践的な方法を学ぶことができる「愛犬飼育スペシャリスト講座」を引き続き実施し、今年度の申込者数は657名であった。これまでの申込者数の累計は8,386名で、合格者は5,138名となった。

また、猫の飼育にあたって必要な実践的な方法を学ぶことができる「愛猫飼育スペシャリスト講座」については、今年度の申込者数は562名であった。これまでの申込者数の累計は4,156名、合格者は2,707名であった。

なお、上記両講座の受講生の募集や受付、教材の発送などの業務は株式会社ユーキャンへの委託方式で実施した。

（７）犬と猫との暮らしの教科書

社会全体としての適正飼養の確保及び推進を図るためには、関係する行政はもとよりペット関連産業従事者をはじめ、動物関連学校生、そして一般の飼い主向けに最新で包括的な情報の伝達と教育が重要である。このため、ペット飼育に関する広

範な知識・情報を解説できるようにするための書籍として、『犬と猫との暮らしの教科書』（3,080 円・税込・送料込み）を発行し、一般・学校向けに頒布した。

今年度の販売数は、一般向けが 121 部、エデュワードプレスを通じて販売した学校向けが 341 部であった。

（８）ペットの飼養管理

各種動物の実践的飼養管理方法をまとめた『ペットの飼養管理』（3,960 円・税込・送料込み）を発行し、一般向けへ頒布しているほか、２級愛玩動物飼養管理士の副教材としても活用。今年度の販売数は 72 部であった。

（９）人と動物が共存する社会環境基盤整備

① 適正な飼育環境の整備

ペットの適正飼養を推進するためには住環境等の社会環境基盤整備を図ることも重要であることを踏まえ、愛玩動物飼養管理士教育の補完を図るために、ペット共生マンションなどの整備及び管理運営方法の適正化を推進するための『ペット共生マンションの適正化推進ガイドライン』及び集合住宅向けの『飼い主のマナーハンドブック』の頒布や、ペット共生住宅の実現を目指す広がり（動き）を支援するための「ペットフレンドリーホーム宣言（人とペットの豊かな暮らし宣言）」の募集を行った。

今年度末時点の宣言団体は以下の 7 企業・団体となっている。

<宣言団体>

一般社団法人ペットインテリア協会、タマホーム株式会社、株式会社住宅工営、株式会社西武ペットケア、旭化成ホームズ株式会社集合住宅事業推進部、アニコム損害保険株式会社、株式会社グッドワン

② 適正な飼育環境整備のための知識の普及

『ペット共生マンションの適正化推進ガイドライン』『飼い主のマナーハンドブック』『ペット共生住宅管理士 住宅と地域環境づくりの仕組みと方法』の 3 冊をテキストとする「ペット共生住宅管理士」の検定試験においては、今年度の申込人数は 212 名、累計合格者は 742 名となっている。

③ ペットツーリズムにおける適正飼養の確保

ペット・ツーリズムにおける適正飼養の確保等を図るため、全国ペットツーリズム連絡協議会の一員として参画をした。

(10) 愛玩動物飼養管理士認定委員会・教材等

① 管理士教本の編集

当期は、2025（令和7）年度に向けた内容の点検を行った。

② 課題報告問題・認定試験問題の編集

最新版の認定試験問題集の中から、今年度の認定試験問題を選定した。また、2025（令和7）年度教本の内容に合わせて、2025（令和7）年度に向けた課題報告問題と認定試験問題の点検を行った。

③ スクーリングスライドの編集

2024（令和6）年度教本に合わせて、スクーリング教材の修正と改善を行った。

(11) 愛玩動物飼養管理士を中心とした教育事業の広報

① 募集要項パンフレットの見直しと改訂を行った。

② HPのコンテンツ改善とメンテナンスを適宜実行した。2024（令和6）年度は、約25万ユーザーからの訪問があり、約79万ページビューがあった。

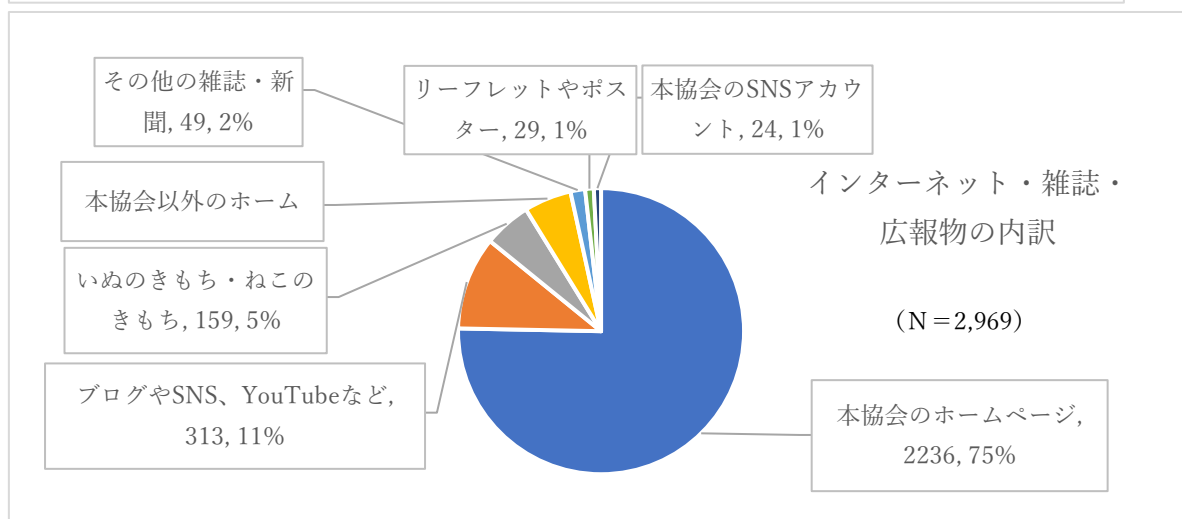
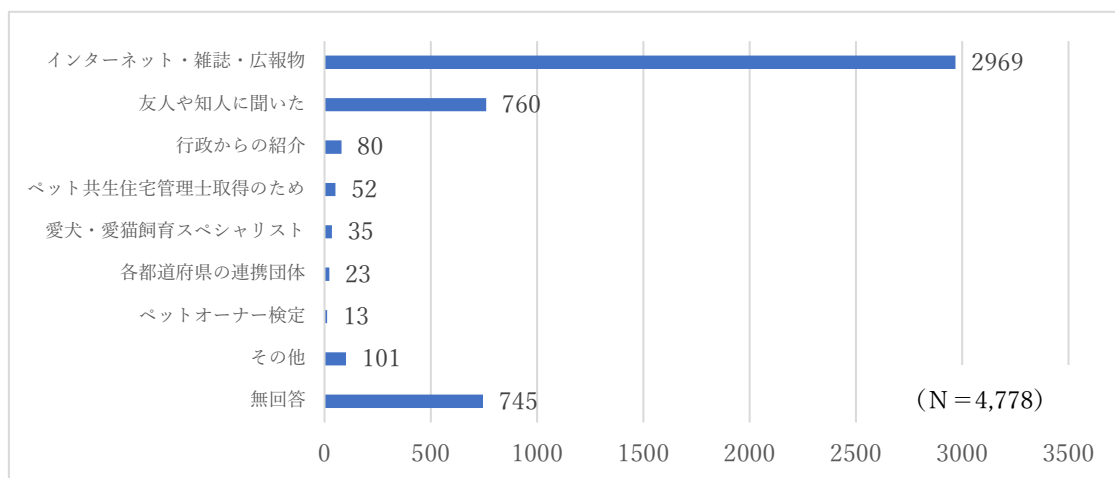
③ ランディングページ（LP）を活用しながら、リスティング広告、公式Instagram、Xからの情報発信、アフィリエイト（インフルエンサー/ブロガーの紹介告知力を活用した成功報酬型広告）を行った。

④ 通信講座やスクールの紹介サイト「BrushUP 学び」「ベスト進学ネット」での広報を行った。

⑤ 企業とのタイアップ広報（企業内会員に向けた広報に管理士等の紹介記事の掲載）、ペット雑誌における管理士のパブリシティーPR、業界紙を活用した広報を行った。

【参考】

今年度の２級愛玩動物飼養管理士受講受験への新規申込者の募集要項請求のきっかけ



(1 2) 上級愛玩動物飼養管理士の認定

ペットの適正飼養の普及啓発に関する実践的な活動の成果を顕彰（評価）するため、更新（第１期及び第４期及び第７期）４３名と新規（第１０期）１名の合計４４名を、上級愛玩動物飼養管理士に認定した（令和７年３月３１日現在での上級愛玩動物飼養管理士数 ６６名）。

1-3 調査研究及び情報の収集、提供

(1) 閲覧室の蔵書の収集と情報の提供

各種文献・学術論文等の収集を行った。また、各種の問い合わせ等に対して動物愛護及び適正飼養関連の情報提供を行った。

1-4 相談会、講習会、講演会、展示会及び調査研究発表会等の開催

(1) 電話やメールによるペット飼養相談の受付

電話やメールなどによるペット飼養に関する相談への対応を随時行った。

(2) 第44回全国ペット写真コンテストの開催

人とペットとのふれあいの楽しさ、動物愛護の心などが表されている写真を通じて、写す側、鑑賞する側双方の動物愛護精神の涵養を図ることを目的として、一般公募方式により「第44回全国ペット写真コンテスト」を実施した。環境省、(一社)ジャパンケネルクラブ、(一社)ペットフード協会の後援のもとで実施し、410点の応募作品(応募者数281名)より14点の入賞作品が審査会において選出された。上位入賞者の表彰は9月23日(土)に動物愛護週間中央行事屋内行事(国立科学博物館にて開催)において行い、受賞者には、賞状及び副賞として賞金、入賞作品をプリントしたパネルを送付した。また、入賞作品は、屋外行事会場に展示した。

賞 名	タイトル	受賞者名 (敬称略)
全国ペット写真コンテスト大賞<環境大臣賞>	最愛のパートナー	里見 隆太
推選 (ジャパンケネルクラブ賞)	いつまでもずっと	阿部 彩萌
推選 (ペットフード協会賞)	至福のひととき	木村 知世
推選 (日本愛玩動物協会賞)	大好き	福田 尚人

なお、過去の入賞作品パネルについては、全国の動物愛護週間行事において展示される等の活用が図られた。貸出先は次のとおりである。

鹿児島県庁、郡山市役所

(3) シンポジウムの開催

2025年3月22日に札幌エルプラザ(札幌市)において、北海道愛玩動物協会と共催で「ペットと高齢者等の福祉」シンポジウムを開催した。登壇者は、高木美智代氏、安野舞子氏、若山三千彦氏、武田美千子氏、東海林克彦氏、高木宏壽氏の6名であり、参加者数は71人であった。

1-5 調査研究活動への助成

2024 年度助成対象者（計 2 件、75.5 万円）への助成を行った。

研究名	氏名	所属	金額
医薬品適正使用の推進を見据えた家庭動物の医薬品管理・服薬状況に関する調査	金野 太亮	東北医科薬科大学	45.5 万円
動物医療従事者及び学生が有する動物アレルギーの実態調査とその対策法の検討	野上 和剛	札幌医科大学	30 万円

1-6 機関誌等図書印刷物の刊行

（1）機関誌『愛玩動物 with PETs』の発行

機関誌（隔月発行）を作成して会員に配布するとともに、関係自治体や全国の図書館への寄贈を行った。なお、各号の特集テーマは次のとおりである。

号	テーマ
297 号（5 月号）	子犬・子猫の迎え方
298 号（7 月号）	爬虫類を知る
299 号（9 月号）	ペットや動物関連の展示・学習施設
300 号（11 月号）	高齢者とペット
301 号（1 月号）	子どもとペット
302 号（3 月号）	動物愛護・適正飼養についての調査研究のススメ

（2）啓発パンフレット等の頒布による啓発

次のとおりのパンフレット等を頒布し啓発をした。

種別	部数（約）
リーフレット	19,500 部
人と動物の防災を考えよう	8,175 部
いざという時のために ペットが被災したら	7,875 部
被災ペットの救護活動ガイドラインーボランティア活動をされる皆様へー	1,925 部
〇×クイズ 緑（問題裏面：ペットオーナー検定告知チラシ）	1,750 部

種別	部数（約）
○×クイズ 青（問題裏面：ペットオーナー検定告知チラシ）	1,100 部
○×クイズ オレンジ（問題裏面：ペットオーナー検定告知チラシ）	1,500 部
○×クイズ 黄（問題裏面：ペットオーナー検定告知チラシ）	4,050 部

1-7 会員

会員の新規募集及び継続入会の呼びかけを行うとともに、会員に対する特典の付与を、次のとおり行った。なお、3月31日現在の一般会員数は、個人一般会員が11,712人（昨年3月31日時点より1,403人減少）、団体一般会員が12団体（昨年3月31日より5団体減少）であった。

会員特典の概要	協力企業等
機関誌『with PETs』の送付	本協会
もういちど学ぼうプロジェクトの割引受講	本協会
「学びの部屋」のオンライン学習コンテンツ無料視聴	本協会
書籍の割引販売	株式会社エデュワードプレス
トリミング・ペットホテル料金の割引	株式会社西武ペットケア
「休暇村」の本館、コテージ、キャンプ場利用料の割引	休暇村協会
全国のプリンスホテルの施設（ホテル・ゴルフ場・スキー場など）の優待利用	プリンスホテル
年会費の税額控除	内閣府
富士急行株式会社関連施設利用料の割引	富士急行株式会社

1-8 寄付金

寄付金控除の措置が継続されるように取り計らうとともに、協会のホームページ等を利用して、寄付金募集を実施した。

当年度の寄付金の合計額は179,574円であった。

1-9 認定連携団体（各都道府県愛玩動物協会）等の各種プロジェクト活動への支援

（１）認定連携団体（各都道府県愛玩動物協会）

認定連携団体の活動への支援を以下のように実施した。

団体名	所在地	分野	支援金額
全国※19 都道府県認定連携団体	全国 19 都道府県	定款第 4 条に定める事業の一部を都道府県単位で展開	5,270,762 円

※19 認定連携団体の認定状況

2025 年（令和 7）年 3 月 31 日時点

ブロック	認定連携団体のある都道府県
北海道・東北（3）	北海道、青森県、秋田県
関東（5）	茨城県、群馬県、千葉県、東京都、神奈川県
中部（2）	長野県、愛知県
近畿（4）	三重県、大阪府、奈良県、和歌山県
中国・四国（2）	鳥取県、高知県
九州・沖縄（3）	宮崎県、鹿児島県、沖縄県
計： 6 ブロック／19 団体	

また、以下の支援も行った。

① 認定連携団体代表者会議

2025 年 1 月 22 日（水）に、TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京）において、全国の認定連携団体の代表者を対象とした会議を対面で開催し、「愛玩動物飼養管理士の活動推進方策」をテーマとしたグループワークセッションや意見交換などを行った。出席した団体数は、15 団体であった。

② 連携団体の業務代行

代表の申請に基づき、今年度に活動が見込める協力会員 249 名の加入手続きの代行業務を実施した。また、協力会員の募集と登録・管理の代行業務を実施した。

（２）その他の団体

次のとおり、支援対象事業を決定し、支援を行った。

団体名	所在地	活動内容	支援金額
和歌山県愛護教室プロジェクト	和歌山県海南市	児童が動物とのふれあいや心音聴取等を通して、人も動物も同じ生き物であることを感じ、生命を尊重する心や思いやりの気持ちを育むことを目的とし、小学校（10校）・幼稚園（1園）・支援学校（1校）に対して授業を実施。 なお、保護者を交えることにより、地域ぐるみでの適正飼養者の育成も目的として活動を行う。	280,230 円
一般社団法人マナーニ	東京都港区	「動物や他人、そして自分の命も大切にし、思いやる心」を育てることを目的に「犬とふれ合う中で、同じ生き物としての興味関心を持ち、コミュニケーションを取ることの楽しさや優しく接することの大切さを学ぶ」ことをねらいとして、小学校で授業を行う。	298,767 円
特定非営利活動法人うっどああと	岐阜県多治見市	災害時、ペットの命を守ることができるよう、飼い主に対して被災動物対策についてのセミナーを開催し、災害時には、飼い主の責任のもと、ペットと一緒に避難する「同行避難」をすることができることを目的として活動を行う。	200,500 円

2. その他本協会の事業目的を達成するために行った事項

（1）関係団体との情報交換等の実施

関係団体と適正飼養の普及啓発事業に関する情報の交換を行った。

（2）「第36回日本動物児童文学賞」への審査協力

（公社）日本獣医師会が、次代を担う子どもたちのために人と動物の共生等を扱った文学作品を世に送り出すことを目的に設置した児童文学賞に対して、本協会か

ら役員が審査員として協力をした。審査結果は、毎年の動物愛護週間行事として開催される中央行事の屋内行事で発表されている。

(3) 協会の理事及び職員が関係する外部会議及び行事

会議等の名称	関係者・出席者
東京都動物愛護管理審議会	協会本部役員
動物愛護週間中央行事実行委員会	協会本部役員・職員
東京都動物愛護推進協議会	職員
(公社) 日本獣医師会総会	協会本部役員
動物 ID 普及推進会議 (AIPO)	協会本部役員
日本動物児童文学賞審査委員会	協会本部役員
(公社) 日本獣医師会 動物感謝デー企画検討委員会	協会本部役員
関係各党・団体の各種意見交換会	協会本部役員
各指定校の評議員会・カリキュラム検討会等	協会本部役員
ヒトと動物の関係学会	協会本部役員
マスコミ取材対応等	協会本部役員・職員

(4) 各種行事への後援・協力等

名称	開催時期	開催地	主催
軽井沢ドッグツーリズム推進プロジェクト	4月1日～ 2025年3月31日	長野県	一般社団法人軽井沢観光協会
インターペット東京・大阪 2024	東京： 4月4日～7日 大阪： 9月20日～22日	東京都・大阪府	一般社団法人ペットフード協会、一般社団法人日本ペット用品工業会、メッセフランクフルト ジャパン株式会社
第86回チャボ全国品評会	4月14日	東京都	全日本チャボ保存協会
WJVF 第15回大会	7月27日～28日	大阪府	公益社団法人日本動物病院協会・一般社

			団法人日本臨床獣医学フォーラム
動物愛護フェスティバル 2024 インこもろ	9 月 21 日	長野県	動物愛護フェスティバル 2024 インこもろ実行委員会
公益社団法人神戸市獣医師会動物愛護フェスティバル	10 月 6 日	兵庫県	公益社団法人神戸市獣医師会
IPC スクールフェスティバル	10 月 26 日～27 日	愛知県	株式会社アイピーシー
人と動物の共生および SDGs 推進 2024 『ペットとの暮らしを活用する豊かな社会 -それを可能にする環境整備-』	10 月 27 日	兵庫県	公益社団法人 Knots
JAHA 年次大会 2024	11 月 2 日～3 日	東京都	公益社団法人日本動物病院協会 (JAHA)
ほりかわ祭 2024	11 月 2 日	京都府	学校法人京都中央学院
第 7 回ペットインテリア展・ペットサローネ	11 月 20 日～22 日	東京都	一般社団法人アジア家具フォーラム
「動物介在プログラム基礎講習」(オンライン)	2025 年 2 月 1 日～2 日	オンライン	一般社団法人優良家庭犬普及協会

3. 組織、会員、会議等

3-1 組織 — 2025(令和 7) 年 3 月 31 日時点 —

(1) 役員

(※＝常勤)

役員 (12 名)	代表理事 (1 名)	会 長	東海林克彦 (※)
	業務執行理事	副会長	平山淳

	(2名)	常務理事	武田和彦
	理事(7名)		荒井延明、池田毅、石島力、金谷和明、対馬美香子、藤井仁美、光永謙太郎
	監事(2名)		岡崎留美、岡将人

(2) 相談役、顧問

相談役(2名)	安部正弘、椎野雅博
顧問(3名) (※＝学術顧問)	臼井玲子(※)、斉藤久美子(※)、大島誠之助

(3) 委員会

① 愛玩動物飼養管理士認定委員会委員(13名)

委員長: 林谷秀樹

委 員: 荒井延明、臼井玲子、宇山理奈、大野瑞絵、谷田創、対馬美香子、中嶋建介、藤井仁美、宮村美帆、山崎恵子、吉田聡宗、若生謙二

② 実践の飼育方法教育委員会委員(3名)

委員長 林谷秀樹

委 員 臼井玲子、藤井仁美

③ 調査研究助成委員会委員 (委員名は非公開)

(4) 事務局役職員数

(単位:人)

区 分	年度当初	増 加	減 少	3月末
役員(常勤)	2	0	1	1
職員	6	1	0	7
計	8	1	1	8
派遣職員	3	1	2	2

3-2 会員数

(単位：人・団体数)

会員数		2024 年度末	2023 年度末
正会員	個人	51	52
	団体	21	21
個人一般会員		11,712	13,115
団体一般会員		12	17
名誉会員		0	0

3-3 会議の開催状況

① 社員総会

会議名	開催日	審議事項
第 15 回定時社員総会	6 月 13 日 (木)	2023 (令和 5) 年度貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録の件、理事 10 名及び監事 2 名の選任の件
令和 6 年度臨時社員総会	8 月 30 日 (金)	欠員に伴う理事の選任の件、補欠の理事及び補欠の監事の選任の件

② 理事会

会議名	開催日	審議事項
第 1 回定例理事会	5 月 20 日 (月)	令和 5 年度事業報告、決算及び監査報告について、理事及び監事並びに各種委員の候補者について、総会の議事運営について、業務執行報告について、上級愛玩動物飼養管理士の認定について
第 2 回定例理事会	6 月 13 日 (木)	役職理事の選任について、理事の職務権限規程に基づく代行順序の決定について、各種委員等の選任について

会議名	開催日	審議事項
第1回臨時理事会	8月9日（金）	「中長期的見地からの協会のあり方」の検討について、欠員に伴う理事及び補欠の理事・監事の選任について、正会員の入会について、臨時の社員総会の開催について
第3回定例理事会	11月19日（火）	上半期の事業報告、決算報告、監事監査報告について、役職理事の選任について、非常勤業務執行理事の報酬月額の変更について、旅費規程の改正について、理事等の定員数について、協会の中長期計画について、業務執行報告について
第4回定例理事会	1月23日（木）	愛玩動物飼養管理士認定試験（11月）の合否判定について、調査研究助成について、職員給与のベアについて、大阪・関西万博について、協会の中長期計画について
第5回定例理事会	3月18日（火）	愛玩動物飼養管理士認定試験（2月）の合否判定について、次年度の事業計画と予算案について、特定費用準備資金について、国及び地方自治体への支援事業について、連携団体の認定及び適正飼養推進プロジェクト支援について、令和7年度定時社員総会の開催について、理事・監事の増員候補者について、役員賠償責任保険の契約更新について、協会の中長期計画について

③ 業務執行理事会

会議名	開催日	審議事項
第1回業務執行理事会	4月22日（月）	令和5年度事業報告、決算及び監査報告について、第1回理事会（5月20日）、第2回理事会（6月13日）の議事について、理事会での業務執行報告について、総会の議事運営について、理事及び監事並びに各種委員の候補者について
第2回業務執行理事会	5月20日（月）	上級愛玩動物飼養管理士の認定について、総会の議事運営について、中期計画等のあり方について
第3回業務執行理事会	6月13日（木）	6月賞与等について
第4回業務執行理事会	6月25日（火）	役員等の退任者への対応について、愛玩動物飼養管理士等の教材の点検作業の進め方について、大阪・関西万博について、「中長期的見地からの協会のあり方」の検討について
第5回業務執行理事会	7月24日（水）	大阪・関西万博について、「中長期的見地からの協会のあり方」の検討について、欠員に伴う理事及び補欠の理事・監事の選任について、正会員の入会について、臨時の社員総会の開催について、臨時理事会（8月9日開催）の議題について、防災協定について
第6回業務執行理事会	8月22日（木）	臨時社員総会の開催について
第7回業務執行理事会	9月5日（木）	業務執行について、次回の議題について
第8回業務執行理事会	9月12日（木）	業務執行について、次回の議題について、役員について

会議名	開催日	審議事項
第 9 回業務執行理事会	9 月 27 日（金）	上半期の決算報告（監査を含む）の実施スケジュールについて、愛玩動物飼養管理士活動の推進方策について、検討会議の開催について、理事等の定員について、次回の議題について
第 10 回業務執行理事会	10 月 11 日（金）	上半期の事業報告・決算報告等について、愛玩動物飼養管理士活動の推進方策について、連携団体代表者会議について、理事等の定員数について、国及び地方自治体への支援事業の実施結果、協会の中長期計画について、理事会の議事について、次回以降の議題について
第 11 回業務執行理事会	10 月 25 日（金）	旅費規程の改正について、国及び地方自治体への支援事業の実施スケジュール及び支援メニューについて、非常勤業務執行理事の報酬月額の変更について、次回以降の議題について
第 12 回業務執行理事会	11 月 15 日（金）	11 月認定試験の実施計画について、本年度の広報の実施計画について、A E E S 及び動画シリーズ集の整備状況について、セルフアセスメント業者の選定について、12 月賞与の決定について
第 13 回業務執行理事会	12 月 20 日（金）	連携団体代表者会議について、調査研究助成について、次年度の事業計画の重点ポイントについて、愛玩動物飼養

会議名	開催日	審議事項
		管理士認定試験（11 月）の合否判定について、広報計画の教育事業別の考え方について ※ヒアリング、教育動画ライブラリー集の配布・公開について ※ヒアリング、役員の通勤費について、次回の理事会について、協会の中長期計画について、大阪・関西万博について
第 14 回業務執行理事会	1 月 15 日（水）	次年度の事業計画の重点ポイントについて、大阪・関西万博について、横浜国大における寄附講座の開設について、協会の中長期計画について、本年度の資産取得資金及び特定費用準備資金について
第 15 回業務執行理事会	1 月 23 日（木）	次年度の事業計画の重点ポイントについて、大阪・関西万博について、協会の中長期計画について
第 16 回業務執行理事会	2 月 27 日（木）	次年度の事業計画の重点ポイントについて、協会の中長期計画について、理事・監事の増員候補者について、大阪・関西万博について、次回の理事会について
第 17 回業務執行理事会	3 月 6 日（木）	愛玩動物飼養管理士認定試験（2 月）の合否判定について、次年度の事業計画と予算案について、連携団体の認定及び適正飼養推進プロジェクト支援について、特定費用準備資金について、国及び地方自治体への支援事業について、令

会議名	開催日	審議事項
		和 7 年度定時社員総会の開催について、理事・監事の増員候補者について、役員賠償責任保険の契約更新について、協会の中長期計画について、職員の定期昇給について

④ 各種委員会

委員会名	開催日	審議事項
第 1 回愛玩動物飼養管理士認定委員会	7 月 29 日（月）	2023（令和 5）年度 第 3 回愛玩動物飼養管理士認定委員会議事要旨の確認、2025（令和 7）年度の愛玩動物飼養管理士教本について＜答申＞、2025（令和 7）年度の課題報告問題及び認定試験問題の点検について＜諮問＞
第 2 回愛玩動物飼養管理士認定委員会	11 月 28 日（木）	認定試験（11 月）の合格者の決定について＜諮問・答申＞、2025 年度 課題報告問題・認定試験問題の点検について＜答申＞
第 3 回愛玩動物飼養管理士認定委員会	2 月 27 日	認定試験（2 月）の合格者の決定について＜諮問・答申＞、2026 年度 教本の点検について＜諮問＞

Ⅲ 事業報告の付属明細書

2024（令和6）年度の事業報告の付属明細書は、補足すべき重要な事項がないことから、作成をしていない。

以上